

## 平成 23 年度 大学院入学式告辞

まずは日本の歴史上未曾有の東日本大震災に触れなければなりません。死者・行方不明者 28,000 人以上、被害額 25 兆円とも言われる大災害になりました。東日本大震災による被災者の皆さまにお見舞い申し上げます。国の内外からの支援の輪が広がっており、香川大学においても教職員はもちろん学生諸君も義援金の募金活動に加わってくれております。また、先週、私は北京を訪問しておりましたが、その折に香川大学同窓会中国支部の卒業生諸君が日本円で 42 万円ほどの義援金を私に託してくれました。被災地においては災害からの一日も早い復興を願っておりますが、科学・技術のあり方や自然との共生について改めて考え直す必要があると感じております。また、現在の我われの繁栄はまさに永年にわたる日本人の努力と英知の成果であることを考えますと、東日本を復興させることは 21 世紀に生きる私たち日本人の責任であると考えております。

大学院への入学おめでとう。香川大学は新たに 359 名の大学院生を迎えることになりました。このなかには、かなりの数の外国人留学生と社会人が含まれています。香川大学はあなたたちを心から歓迎します。

あなたたちは、修士課程、博士課程、博士前期課程、博士後期課程、専門職学位課程の院生であり、所属する課程も多様であります。また、学士課程や修士課程からの進学者や社会人であったり、外国人留学生の人もあり、さまざまな志向性と専門性、属性を持っています。したがって、大学院課程において達成すべき目標や目的も多様であります。高度な専門知識を持った技術者や教育者をめざす人もいます。地域社会や企業とのリーダーをめざす人もいます。また、弁護士などの法曹をめざし、きわめて明確な目的を持って勉学に励む人もいます。もちろん、生命科学や工学、環境科学などの研究者をめざす人も多数いるはずで、それぞれの目標に向かって努力を継続し、自分自身で納得できる成果をあげられることを期待しております。また、大学院課程に在籍している間に、さまざまな実践と学問を通して、豊かで社会からも尊敬される社会人に成長されることを強く願っております。

あなたたちの多くは最先端の研究課題にこれから取り組んでいくことと思います。それは、ライフサイエンスやナノテクノロジー、情報通信、環境、地域開発の分野であったりするはずであります。大学院では、最先端の課題にあなたたち自身の力で取り組むことが重要であります。常に考えてほしいのはあなたたちが取り組んでいる「研究課題の位置付けについて」であります。自分自身の研究課題が、例えば生命科学の中でどのような役割を果たしているのか、また工学の中でどのような役割を果たしているのか、自然科学全体に対してどのような影響を与えることができるのか、さらには人類の幸せのためにどのように役立とうとしているのかを常に考えてください。それも自分ひとりだけではなく、周りの仲間とディスカッションすることが大切であります。そのような日常的活動があなたたちの研究の幅を広げ、あなたたち自身の将来の発展可能性を大きくすることにつながることは間違いないと私は思います。

また、最先端の研究課題に取り組む、そこで得られる知識や研究成果に満足してはいけません。君たちの将来にとってもっとも大切なことは、最先端の研究に関する知識ではなく、研究に取り組んでいる過程で見つかる新たな課題の発見であり、その課題への解析であり、研究成果を取りまとめ、公表する過程で養われるさまざまな能力であります。それらは探求力や解析力、企画力、表現力などと言われるものであります。私は、最先端の研究課題は探求力や解析力、企画力、表現力などの能力をみがき、修得するための「場」と考えています。

さて、この4月から5年間の第4期科学技術基本計画案が見直されることが、3月31日に決まりました。これは、この度の大地震を受けての措置であり、防災・復興関連技術や安全対策の研究を強化するほか、原子力を重要な柱と位置付けるエネルギー関連研究を再検討するようであります。ただ、近年の世界がダイナミックに変化していることには変わりはありません。地球温暖化をはじめとする地球環境問題や水・食料・エネルギーに関する問題の顕在化、自然災害や新型インフルエンザをはじめとする感染症の多発、貧困層の拡大など、世界規模の諸課題が深刻化しております。国内でも少子高齢化

の進展や産業競争力の相対的低下などの課題が山積しております。

このような課題に対する学術研究からの取組が、人類社会の発展のみならず、地球の明るい未来のために貢献すると考えられます。ただ、21 世紀の人類社会の課題解決のためには複数の科学分野の一体的取組が不可欠であり、さらに学術と社会との協調関係が必要であることを忘れてはならないと思います。

これからの学術研究の重要な課題である地球環境問題をはじめ、個人の安全システムやアジア、個人と国家、リスク管理、情報技術などの課題に、研究や技術という立場だけでなく、行政や企業の立場から、あなたたちは関わって行くことになると思われます。新しい視点を持って課題へ挑戦し、あなたたち自身が日本における知的活動・創造力の担い手になることをめざしてもらいたいと思います。私たちはあなたたちのチャレンジに大いに期待しております。

我われ大学人は、地球温暖化をはじめとする地球規模的な課題や少子高齢化・地域社会活性化をはじめとする地域社会の課題にも積極的に取り組み、安全で質が高く、かつ若者が夢と希望を抱ける社会を実現するために最大限の努力をしなければならないと考えております。

あなたたちが香川大学での大学院生活を通して、豊かな教養と高度な専門知識を備えた研究者や高度な技術者だけでなく、社会のあらゆる分野で活躍できる有為な人材に育ってくれることを願っています。

平成 23 年 4 月 4 日

香川大学長 一井 眞比古